



東日本大震災復興支援でスポーツ交流 サッカーと高校野球で 心を通わせ、絆を深めた



力投する高田高校の投手



しっかり守る



9回裏、高田高校のサヨナラのホームイン



試合前に固い握手



サヨナラ打で歓喜



総社南高校、打つ!



釜石中学校のシュート!



日本語講座の外国人から千羽鶴が贈られた



ホームステイの家庭で話が弾む



ホームステイで笑顔がいっぱい



昼食時間、大槌中学校の選手(中央)といろんな話で盛り上がっていた



志津川中学校対総社東中学校。ボールの奪いあい

総社市とAMD A(特定非営利活動法人アムダ)の主催で東日本大震災復興支援サッカー交流が8月3日、総社北公園陸上競技場で開かれ、被災地の3中学校と総社東中学校など計6校が、サッカーを思い切り楽しみ、交流を深めました。岩手県釜石市の釜石中学校、岩手県大槌町の大槌中学校、宮城県南三陸町の志津川中学校の3校46人を招待。東日本大震災で甚大な被害を受けたこの3市町

で、市とアムダは震災直後から救援活動や医療支援などを行いました。

交流試合は、総社東中学校、岡山市の香和中学校と吉備中学校の3校を加えた6校で、ほぼ総当たりの15試合。1試合20分で行われ、選手たちは、芝の感触を楽しみながら、一生懸命ボールを追いかけていました。

試合前の歓迎式では、激励の寄せ書きを書いた総社東中学校サッカー部のユニフォームや、市が行う日本語講座を受講している外国人が折った千羽鶴が、被災地の3中学校にプレゼントされました。

被災地の3中学校の選手は、総社東中学校サッカー部員の家庭にホームステイ。食事や遊びを通じて親



寄せ書きをした総社東中学校のユニフォームをプレゼントした

一言~ひとこと~

■釜石中学校
小川真夏斗キャプテン
「近くの学校にないプレースタイルのチームとゲームできて楽しかった」

■大槌中学校
藤原可偉キャプテン
「芝の上での試合は楽しかった。みんなと交流を深めたい」

■志津川中学校
及川大貴部長
「総社東中学校からもらった寄せ書きのメッセージは、今後の励みになった」

■総社東中学校
横田哲也キャプテン
「サッカーは心が通じあえるいいスポーツだ。ホームステイでも交流を深めた」

■高田高校
佐藤央祐キャプテン
「野球をやっている姿を多くの人に見てもらえ、うれしかった。支えてくれた人に感謝したい」

■総社南高校
高谷知宏キャプテン
「当たり前で野球ができることに感謝している。最後まであきらめない、全力プレーを心掛けた」